



平成 27 年度

PIANC-Japan 活動報告会

平成 27 年 6 月 23 日

国際航路協会日本部会

平成 27 年度 PIANC-Japan 活動報告会

平成 27 年 6 月 23 日

15:45～16:50

都市センターホテル 601 号室

- 1) 活動報告会開会挨拶 (15:45～15:50)
須野原 豊 PIANC-Japan 会長
- 2) ポルト AGA の概要 (15:50～16:00)
堀川 洋 PIANC-Japan 事務局長
- 3) DePaepeWillems 賞受賞報告 (16:00～16:10)
三井 順 (株) 不動テトラ
- 4) MarCom 委員会報告 (16:10～16:20)
樋口 嘉章 (株)オリエンタルコンサルタンツ執行役員
- 5) CoCom 委員会報告 (16:20～16:30)
大内 久夫 日建工学(株) 専務取締役
- 6) EnviCom 委員会報告 (16:30～16:40)
中村 由行 横浜国立大学大学院
都市イノベーション研究院 教授
- 7) RecCom 委員会報告 (16:40～16:50)
山下 雅人 (一社) 日本マリーナ・ビーチ協会理事

*資料のみ配布 YPCom 委員会報告

高橋 英紀 (国研) 港湾空港技術研究所 地盤研究領域

動土質研究チーム 主任研究官

ポルト(ポルトガル)年次総会 (AGA) の開催

PIANC-Japan 事務局長 堀川 洋

1. 場所

Alfandega Congress Center ポルト (ポルトガル)

2. 日程

2015年5月19日から20日

・1日目 : AGA、市庁舎レセプション、夕食会

・2日目 : Technical seminar on Duoro River

Leixoes 港 (総取扱量 1800 万トン、70 万 TEU) 視察

背後産業視察

3. AGA 概要

150 年前に建てられた Customs House を改装し現在会議場等として利用されている Alfandega Congress Center を会場に開催されました。わが国からは須野原副会長、川嶋日港連会長、林田新日鉄住金顧問、中川港湾局首席国際調整官、本田水産庁上席漁港漁場専門官、山崎整備課性能規定係長、藤田不動テトラ副社長、同三井係長、住友ゴムの清水氏および PIANC 日本支部事務局長堀川が出席しました。

会議では会長からの今後の PIANC のおかれる環境と取り組むべき課題、事務局長からの活動報告及び、ベトナム及びインドネシアの PIANC 加盟、PIANC レポートによる収入などについての報告、財務委員会委員長より 2014 決算および 2015 事業計画および 2015-2018 中期計画の報告がなされました。

また、CoCom 委員長の Edward Schmeltz 氏が新副会長に任命されました。





さらに、以下の活動についての報告等がありました。

Honorable Member エストニアによるビデオレターによる挨拶

World Water Forum in Daegu, Korea

The 5th YpCom BTV

PIANC SMART Rivers 2015

NordPIANC Meeting 2015

Climate Conference in Paris

COPEDEC IX 2016 in Brazil

AGA 2017 in Cairns, Australia の調印式

次に DPWA(De Paepe-Willems Award) の表彰が次の通り行われました。

第一位：Mr. Sebastian Solari (ウルグアイ)

“Risk-based verification and optimization of harbor approach channel depth”

第二位：Dr. Vicky Stratigaki (Universteit GENT、ベルギー)

“Modelling of wave attenuation induced by multi-purpose floating structures
used for power supply and coastal protection”

第三位：三井 順 氏 (工博、(株)不動テトラ)

“New design method of armor units covering rubble mound of composite
breakwater against tsunami overflow”

第一位の 氏への表彰状授与と表彰論文のプレゼンテーションに続き、わが国から応募して3位に入賞した三井氏へ表彰状と賞金の授与が行われました。



その後、各技術委員会の議長、副議長よりの活動報告、WG181”the state and perspectives of waterborne transport infrastructure worldwide”の立ち上げについての報告がありました。

最後に、わが国より林田新日鉄住金顧問が日本港湾協会企画賞を受賞した PIANC MarCom における津波に関する研究についてのスピーチを行いました。



なお、今後の AGA および Congress の予定は次の通りです。

- 2016 AGA ブルージュ、ベルギー
- 2017 AGA ケアンズ、オーストラリア
- 2018 AGA および Congress パナマ
- 2019 AGA 神戸 (予定)
- 2020 AGA イギリス

De Paepe-Willems 賞受賞報告

(株)不動テトラ 三井 順



平成27年度 PIANC-Japan 活動報告会

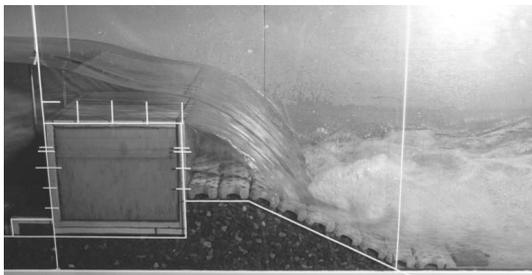
PIANC AGA (2015.5.19、ポルトガル・ポルト)



New design method of armor units covering rubble mound of composite breakwater against tsunami overflow

(津波越流に対する混成防波堤マウンド被覆材の新しい設計法)

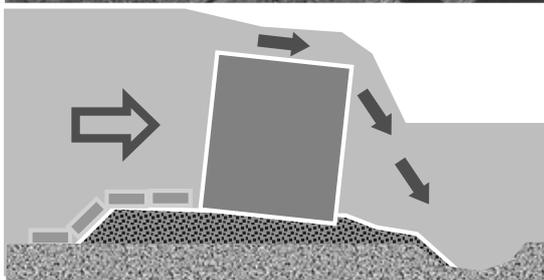
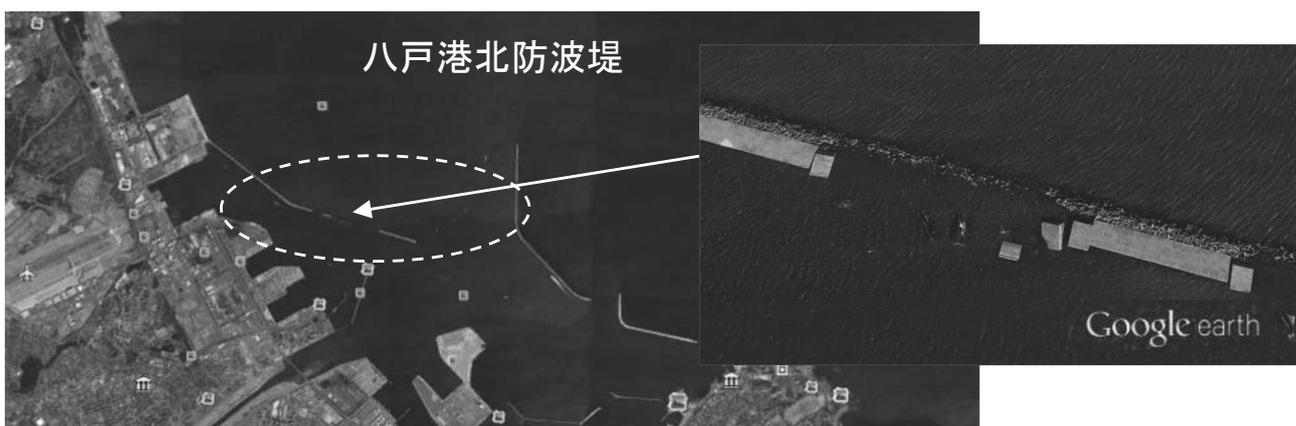
三井 順¹⁾・松本 朗¹⁾・半沢 稔¹⁾・灘岡和夫²⁾



- 1) 株式会社不動テトラ
- 2) 東京工業大学

PIANC De Paepe – Willems Award 2015

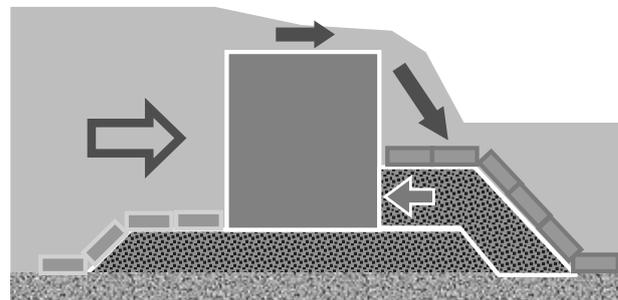
津波による防波堤の被害



- 防波堤港内外の水位差による水平波力
- 越流による港内側マウンドおよび地盤の洗掘

防波堤の津波対策

- 腹付工の設置による滑動抵抗力の増加
- 被覆材の設置による洗掘の防止



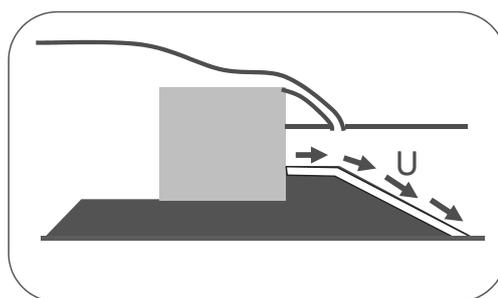
津波越流に対する被覆材の安定性は不明な点が多い

既往の被覆材の設計法の課題

➤ 「イスバッシュ式」

- …被覆材近傍流速 U と被覆材の所要質量 M との関係式

$$M = \frac{\pi \rho_s U^6}{48 g^3 y^6 (S_r - 1)^3 (\cos \theta - \sin \theta)^3}$$



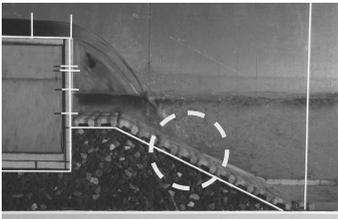
- 所要質量が流速の6乗に比例するため、被覆材近傍の流速を精度良く求める必要がある
- 流速を求めるには数値解析によらざるを得ないため、時間・労力がかかる

➡ 水理模型実験・数値解析を実施し、より実用的な設計法を検討

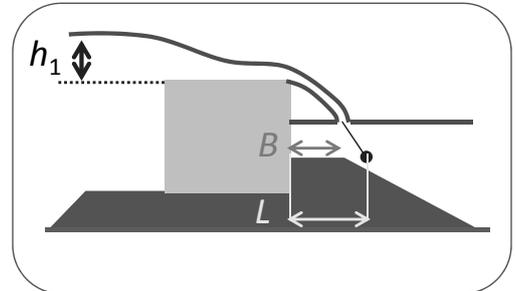
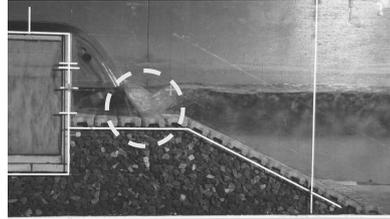
被覆材の安定性に関わる主要因

1. 越流水の打ち込み位置の影響: B/L

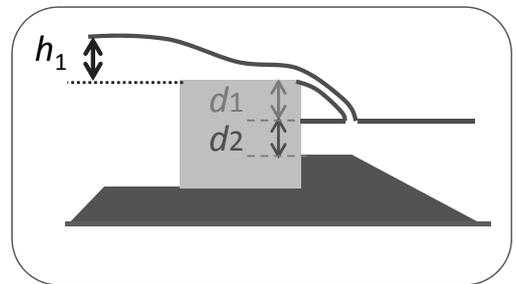
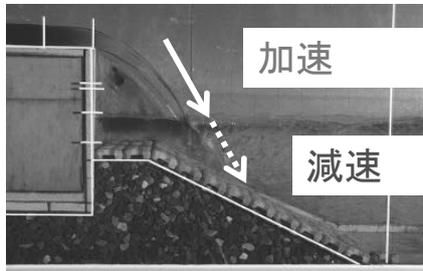
斜面に打ち込み



天端に打ち込み

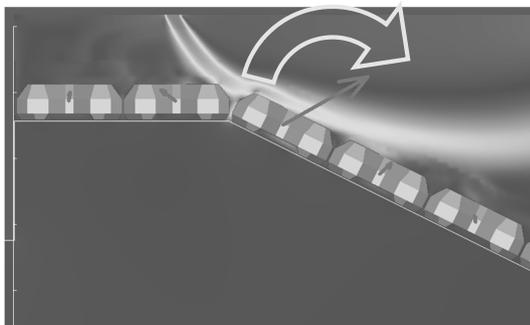
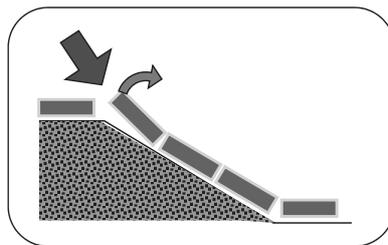


2. 港内側水位の影響: d_2/d_1

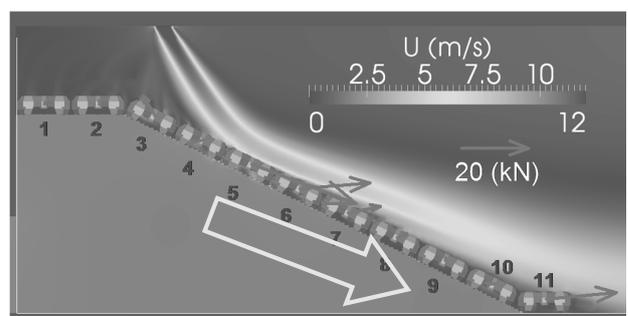
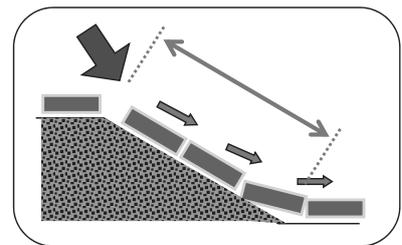


被覆材の被災形態

■ めくれ



■ 滑り

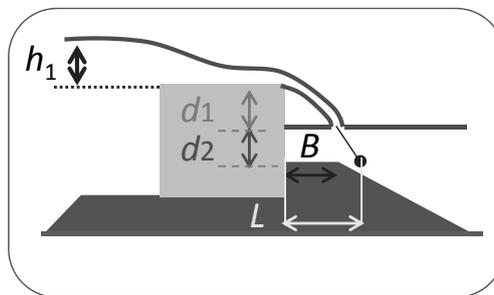


➤ 被覆材単体の力のつり合いで安定性が決まる

➤ 斜面部の被覆材全体の力のつり合いで安定性が決まる

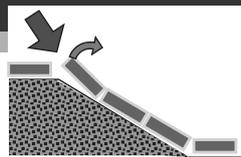
安定性照査式の基本的な考え方

1. イスバッシュ式のように、所要質量を流速に対して算定するのではなく、越流水深 h_1 に対して算定する
2. 打ち込み位置の影響と水深の影響をそれぞれ B/L 、 d_2/d_1 の2つのパラメータで取り込む
3. 被災形態ごとに2つの安定性照査式を用いる



安定性照査式

■ めくれに対する式



$$\frac{h_1}{(S_r - 1)D_n} = N_{S1}$$

← 作用力

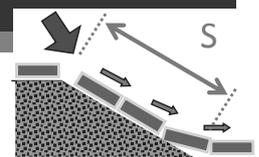
← 抵抗力

$$N_{S1} = f\left(\frac{B}{L}, \frac{d_2}{d_1}, \text{被覆材形状}\right)$$

→ 安定限界の越流水深 h_1 は被覆材の基本長 D_n に比例

h_1 : 越流水深
 D_n : 被覆材の代表径 ($= V^{1/3}$)
 S : 斜面長
 S_r : 被覆材の比重
 N_{S1} 、 N_{S2} : 安定数

■ 滑りに対する式

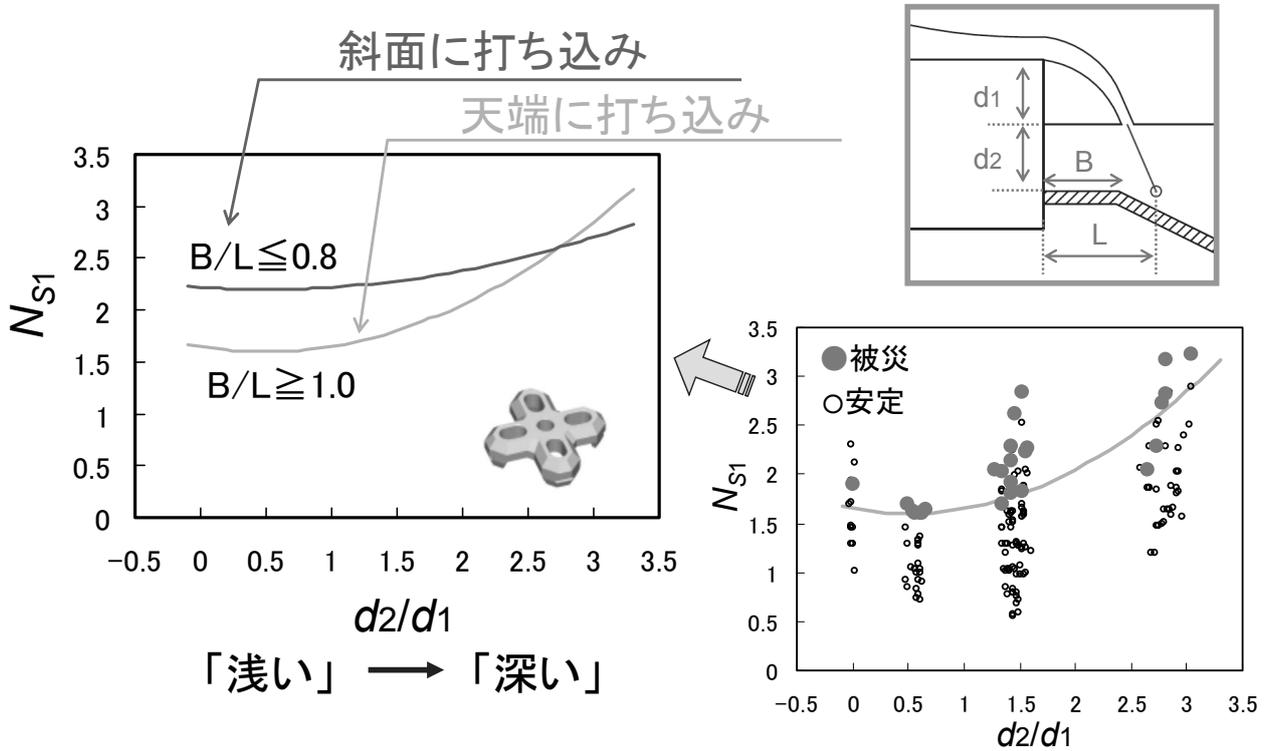


$$\frac{h_1}{(S_r - 1)S} = N_{S2}$$

$$N_{S2} = f\left(\frac{d_2}{d_1}, \text{被覆材形状}\right)$$

→ 安定限界の越流水深 h_1 は斜面長 S に比例

実験結果から被覆材ごとの安定数を決定



まとめ

➤ 津波越流に対する実用的な設計法を提案した

- 津波の越流水深で外力を代表させた
→ 被覆材の所要質量が容易にかつ精度良く算定できる
- 安定性に関わる主要因(打ち込み位置と港内側水位の影響)を取り込んだ
- めくれと滑りの2つの被災形態ごとの照査式を導いた
- 実験結果に基づいて被覆材ごとの安定数を決定した

ありがとうございました



PIANC De Paepe – Willems Award 2015



2014 年度 海港委員会(MarCom, Maritime Navigation Commission)の報告

MarCom 委員

(株)オリエンタルコンサルタンツ 執行役員

樋口 嘉章

2014 年度の海港委員会 (MarCom) の活動状況について紹介する。

1. 全般

2014 年度も、引き続いて、長期間活動してきている WG について結果を出して終了させることによって、進行中の WG の数を減らすことを目指した。このために、WG の議長と MarCom のメンターには WG のフォローアップ作業で苦勞をかけるとともに、MarCom のメンバーにもレビューの仕事で負担がかかることとなった。

2014 年には、PIANC 戦略計画 2014-2018 を受けて、MarCom アクションプラン 2014-2018 が承認された。これを受けて、MarCom は、「WG の最も適切なトピックを選び、高品質な WG レポートが作られることを支援し」、「MarCom の WG およびエキスパート・グループの報告書の生産を円滑にする」ということを目標に活動してきた。

WG158 「港湾の再開発マスタープラン」報告書は、異なったタイプのターミナルについて検討していく一連の WG の概念的枠組みを示す一里塚になったと言えるだろう。

サンフランシスコにおける kongress では、MarCom の WG の活動に関連した発表がいくつかつかなされ、今後のレポートへの期待を高めることとなった。

会議

2014 年度 MarCom は 2 回の会議を開催した。

—2014 年 9 月 15~16 日 於 ヴェニス (伊)

—2015 年 2 月 3~4 日 於 ブリュッセル (白)

MarCom メンバーの交代

2015 年 2 月時点の MarCom メンバーは別添-1 の通りである。新規にイラン、韓国、コロンビア、トルコ、ポーランド、オーストラリア、フィリピン、アルゼンチンなどが参加して、メンバーが増えているが、このうち、これまで出席したことがあるのは、オーストラリア、アルゼンチンの二カ国に限られている。

セクレタリーを務めていた Dominique Etienne (仏) がフランス政府内で異動し、MarCom を離れることとなった。これまでの Dominique Etienne の MarCom での貢献に感謝の意を表す。後任のセクレタリーにはスペイン・セクションから加わった Santiago Povedano Marcos が、セクレタリーに就任した。

Veikko Saukkonen(フィンランド、12年間メンバーとして尽力)がMarComを離れることとなった。後任として、Seppo VirtanenがMarComメンバーに指名された。

新たにフィリピン代表メンバーとしてMr. Raul T. Santos、代替メンバーとしてMr. Roberto C. Aquinoが指名された。また、オーストラリア代表メンバーとしてMr. Peter Fountain、代替メンバーとしてMr. Scott Willian Keaneが、アルゼンチン代表メンバーとしてMr. Carlos GinesがMarComメンバーに指名された。オーストラリアとアルゼンチンからの新メンバーは会議に参加しており、ヨーロッパ以外からの出席者が増えつつある。

2015年5月で、MarComのEsteban議長の任期が終わるが、MarComとしては同氏の再任を支持することとなった。また、副会長のノルウェイのTore Lundestadが2014年6月のAGA(於サンフランシスコ)で再任された。

2. WGの発表

・2015年2月の会議では、WG145とWG165について発表がなされた。

・WG145「接岸速度と防舷材の設計」

WGセクレタリーの森弘継より、概要の発表があった。今後、最終報告書(案)をMarComに提出することとなった。WGとして、WG33報告書(防舷材の設計)に関して、今回WGで取り上げなかった事項についても、アップデートすることを提案する。

なお、本WGは、サンフランシスコでのAGAの前日、プレ・コンGRESS・セッションの一つとして発表を行っている。

本年4月より清水崇(住友ゴム)がWGセクレタリーを引き継ぎ、取りまとめを進めている。

・WG165「コンテナ・ターミナル舗装の設計と維持管理」

WG議長のJohn KnaptionとセクレタリーDanny Lessageより、概要の発表があった。よくまとまっているとの評価だった。WGは今後もこのWGメンバーで非公式に集まって、さらに検討を深め、将来の出版も視野に入れたいとの意向が表された。

3. 出版物

2014年度には下記の三つの報告書が、PIANCによって刊行された。

—報告書135-2014「中小コンテナ・ターミナルの設計プリンシプル」議長 Mr. George Steele

—報告書158-2014「既存港湾の再開発のマスタープラン」議長 Mr. Stephen Cork

—報告書48-2015「船舶による洗掘から係留施設を守るためのガイドライン」議長 Mr. Marc Sas

4. MarComワーキンググループの進捗状況

・WG47「防波堤の形式決定の判断基準」について、15年2月の会議でHans Burcharth議長とHolger Schuttrumpfセクレタリーより、2010年にMarComで発表して以降、作業量が膨大なこともあり、最終報告書取りまとめまでの時間が非常に長くかかっていること

についての説明があった。WGメンバーの合意が図れる1～9章と概ね合意が得られる10章を早急に報告書として取りまとめるとともに、それ以外の部分(11～15章)の計算・シミュレーションについては、報告書の本体からは切り離れた付録 Appendix とする方向で、取りまとめ作業を進めることとされた。今後、残された作業としては、レポートの合意された結論を取りまとめる(10章程度)ことがある。

・WG152「旅客船ターミナルのガイドライン」議長 Mr. David Pino

2015年9月のMarComで最終報告書(案)の発表の見込み。

・WG153「海洋石油ターミナルの設計に関する勧告」

WGは順調に進んでおり、2015年末には最終的な報告書ドラフトが出て、16年2月のMarComで最終報告書(案)発表の見込み。

・WG159「海港のための再生可能エネルギー」WG

最終的な報告書のMarComへの提出予定は2015年9月となっている。

・WG161「沖合風力発電施設と船舶航行の相互影響」

2012年12月に議長が指名された。プロGRESS・レポートと目次(案)が示された。しかしながら、WGのメンバーが各国から指名されたメンバーのリストと完全には一致していないという問題があり、このことについて整理する必要であるとともに、新しいメンバーを加えるにあたってはMarCom議長の承認が必要であることを、セクレタリーからWG議長あてのレターで指摘する。

・WG162「海洋コンクリート構造物の耐久性と供用期間延伸のための勧告」

海洋構造コンクリートの劣化と維持補修はインフラの所有・管理者にとって、厳しい課題である。本WGでは、海洋コンクリート構造物の所有者や設計者に、これらの構造物の安全・効率的かつ経済的な設計・建設・維持管理ガイドラインを提供することが目的である。

レポートでは、耐久性設計・品質の保障・通常の状態の評価(構造物の供用期間中の品質管理)・予防的維持・海洋コンクリート構造物の補修に焦点を当てており、コンクリートの耐久性と供用期間に関する現存の基準に加えて、ガイドラインとして考えられるべきものである。

9月にブリュッセルで開催されたWGで、合意した目次に沿って、再スタートすることとなった。次の会議が15年3月に予定されている。

・WG164「浚渫増深による港湾ターミナルの機能強化」

既存の港湾施設を、ターミナルの利用状況の変化や船型の大型化や船の積載量が大きくなることに伴って、新しい運用上の要請に対応していくことは、港湾にとってよくある挑戦である。現存する埠頭の前面を浚渫して増深することは港湾ターミナルを近代化するに当たって一般的なニーズである。

本WGでは、港湾・ターミナルの所有者、設計者、浚渫・建設会社に対して、現存する係留施設の増深に伴う技術的困難に対処するためのガイドラインを提供することを目指し

ている。WG は以下のトピックを取り扱う。現有施設の評価、信頼性と供用性の基準、供用寿命の延長、土質工学的・構造的改良の選択肢、浚渫、構造物と土質基礎部分の相互作用問題。

HQ にさらにメンバー（岸壁の増深の経験のあるコントラクター、オランダからのメンバー）を集めるよう依頼した結果、新たなメンバーがナショナルセクションから指名された。

・WG165「コンテナ・ターミナル舗装の設計と維持管理」

コンテナ・ターミナル舗装の建設と維持管理はターミナルのコスト、効率、運用コンディションに大きな影響がある。加えて、コンテナやコンテナ取り扱い機器による荷重条件は極めて厳しい。本 WG の目的は舗装の設計手順、維持の費用と実務、工事に関して、またそれらにターミナル運営が与えるインパクトについての情報を提供する。WG はコンテナに適した異なったタイプの舗装を類型化して比較するとともに、ケース・スタディを分析する。対象範囲は海港だけに限定するのではなく、鉄道に注意を払いつつ内陸港、マルチモーダル・ターミナルについても考察する。

・WG167「RoRo 船と RoPax 船のためのターミナル設計」

RoRo 船と RoPax 船による輸送は速やかに増加しており、この傾向は、より船型が大型化するとともに、車輛・トラック・乗客 (RoPax) のより速い積み下ろしが必要となっている。この発展のため、現有施設の改良や関連する新しい安全要件の改善を含むターミナルの設計やオペレーションに特有の課題が生まれている。

キックオフ・ミーティングが開かれた。日本からの WG コレスポンディング・メンバーとして国総研の竹信正寛が指名された。さらにフィリピン、出来れば中国からの参加を募りたい。

この WG は RoRo、RoPax ターミナルの両方についての設計とオペレーションに関する勧告とガイドラインをまとめる予定。

・WG171「航路・港湾施設設計のための船舶シミュレーション」

問題なく進行中。

・WG172「バンカリング施設を含む小型・中型 LNG ターミナルの設計」

11 月に WG が開催された。「バンカリングを含む小型から中型 LNG ターミナルの設計」に WG のテーマ名称を変更することを MarCom 議長から ExCom に報告することとされた。

5. 検討中の新しい WG

・「ドライ・バルク・ターミナルに関する WG」の ToR

ToR のドラフトについての議論を踏まえ、Peter Hunter と Stephan Cork が早急に最終ドラフトを準備する。メンバーからのコメントを求めた上で、5 月の ExCom にかける。

・「岸壁における大型船の係留に関する WG」の ToR

Peter Hunter と Stephan Cork が早急に最終ドラフトを準備する。メンバーからのコメントを求めた上で、5 月の ExCom にかける。

- ・「船舶航行海域における海底パイプラインとケーブルに関するWG」の ToR

ToR のドラフトについての議論を踏まえ、Peter Hunter と Stephan Cork が早急に最終ドラフトを準備する。メンバーからのコメントを求めた上で、5月の ExCom にかける。

- ・ RecCom 提出の水面下音響イメージングに関するWGの ToR

MarCom、InCom、RecCom 合同の WG で対応するのが適切との意見だった。WG121 で扱ったような船舶航行・航路に関する話題は避けて、インフラ整備に関連した事項に焦点を当てるべきとの指摘があった。5月の ExCom で Esteban 議長が議論を報告する。

6. ジョイント WG と専門家会議の進捗状況

MarCom の連絡員

- ・ 気候変動に関する常設タスク・グループ (PTG CC) ; Mr. Hunter
- ・ Working with Nature (自然と調和した工事) ; Mr. van der Weck (蘭)
- ・ WG140 「内陸の水利構造物に関する半確率論的設計コンセプト」 ;
EG160 「設計基準」の議長 Mr. Fernagu
- ・ InCom WG155 「閘門内、閘門へのアプローチにおける船舶挙動」
- ・ このほか、DPW 賞と WwN 賞の審査委員会に MarCom のメンバーから参画した。

7. MarCom の現場視察

- ・ 2014 年 9 月の MarCom 会合に合わせて、ヴェニスで進められている高潮対策モーゼ・プロジェクトの現場を視察した。^{1) 2)}
- ・ 2015 年 2 月の MarCom 会合に合わせて、アントワープ港で進められている世界最大の閘門ドゥイルガンクドックロックの建設工事現場を視察した。³⁾

8. その他

- ・ 2015 年 9 月の MarCom については、9 月 28 日 (月) ~ 29 日 (火) ノルウェイのオスロで開催される予定である。また 2016 年 2 月初め (1~3 日) にブリュッセル (白)、2016 年 9 月は英ウォリングフォードで開催されることとなった。
- ・ PIANC MarCom と PIANC 津波レポート No. 122 執筆チーム (代表 高橋重雄 WG 議長) が、「3. 11 津波の港湾への教訓の海外への情報発信」により、(公社) 日本港湾協会の企画賞を受賞した。2015 年 5 月 27 日に清水市で行われた総会にあわせて、表彰式が行われた。表彰式には MarCom を代表して樋口、執筆チームからは港湾空港技術研究所富田孝史博士が出席した。

1) 樋口嘉章、「ヴェネツィアとラグーナ (潟) を守るための総合的取り組み」、情報誌「港湾」、pp. 36-37、2015 年 1 月、

2) 樋口嘉章、「ヴェネツィアの「モーゼ計画」とキオツジャ島の「ベビー・モーゼ」」、情報誌「港湾」、pp. 36-37、2015 年 2 月

3) 樋口嘉章、「建設が進む世界最大の閘門 アントワープ港のドゥイルガンクドックロック」、情報誌「港湾」、pp. 34-35、2015 年 5 月

(2015/05/31

記)

別添—1 MarComメンバーリスト (2015年1月現在)

メンバー

Mr. Francisco Esteban Lefler 議長 スペイン
Mr. Santiago Povedano Marcos セクレタリー スペイン
Mr. H.F. Burcharth デンマーク
Mr. Arjan van der Weck オランダ
Mr. P.D. Hunter UK
Mr. Andrea Ferrante イタリア
Mr. Tore Lundestad (PIANC副会長) ノルウェイ
Mr. Luc Van Damme ベルギー
Mr. F.M.J. van de Laar IAPH (オランダ)
Mr. Seppo Virtanen フィンランド
Mr. Stefan Hauser ドイツ
Mr. Yoshiaki Higuchi 日本
Mr. E.D. Allen USA
Mr. Rafael Escutia スペイン
Mr. Bhuvaragan Poiyaamozhi インド
Mr. Adel Banawan エジプト
Mr. Mohammad Reza Allahyar イラン
Dr. Teak-Hee han 韓国
Mr. Gerardo Castano コロンビア
Mr. Mattias Sandell スウェーデン
Mr. Burak Bilgin トルコ
Mr. Maciej Guema ポーランド
Mr. Peter Fountain オーストラリア
Mr. A.Guzman フィリピン
Mr. Carlos Gines アルゼンチン
(後任の指名待ち) フランス
代替メンバー および YP (Young Professional)
Mr. Vahan Tanal 代替メンバー USA
Mr. Stephen Cork 代替メンバー UK

Mr. Scott Willian Keane 代替メンバー オーストラリア
CN. D. Juan Francisco Herrera 代替メンバー コロンビア
Mr. Kim Andersson-Berlin Y P フィンランド
Mrs. Hadewych Verhaeghe Y P ベルギー

2014年CoCom活動報告

大内 久夫（日建工学株式会社）

第89回CoCom会合

- ・日時 2015年2月4日（水） 14:00 – 17:00
- ・場所 PIANC本部会議室
- ・出席者 委員長Edward Schemltz以下12名
- ・主要議題
 - 1) CoCom年次報告2014
 - 2) 入会勧誘対象国についての議論
 - 3) 小委員会報告
 - 4) 前回委員会以降の活動フォローアップ

注：2014年秋の会合は開催されなかった

インドネシア勧誘の経緯(2)

- 平成27年4月 ケマルもWSへの参加を希望
新たな予算獲得の情報を入手
- 平成27年5月 佐々木専門家がMOTとBPPTの調整
ケマルが予算捻出方法を発見
BPPTもMOTが先行して会員になることを承認
ケマルがPIANC加盟の意思表示

今後PIANCの承認、MOTの会費支払いが確認
されれば正式に会員となる

会費は来年以降、950ユーロずつをMOTと
BPPTが支払う

第1回 PIANC-フィリピン ワークショップ

事前準備

2014年

2月 PPAがPIANCに正式会員として加盟
CoComの場で、フィリピンでワークショップを開催することを決定

6月 サンフランシスコでの総会の間に、CoComメンバーとPPAが議論し、以下の事項を決定した。
ワークショップ開催日 10月16日
ワークショップで発表する5つの技術テーマ
役割分担：
+PIANC: 講師の選定と派遣
+PPA : 会場と参加者の手配

7月 - 9月 ワorkshopに向けた準備

10月 第1回 PIANC-フィリピン ワorkshop開催

PPAがワークショップのためのホームページを開設

The image displays three screenshots of the PIANC-PHL Workshop website. The leftmost screenshot is the homepage, featuring the PIANC and Philippine Ports Authority logos, the event title "1st PIANC-PHL Workshop", and the theme "Improving Maritime Waterborne Infrastructure to Meet Climate Change Challenges". It includes a registration link and a "REGISTER NOW" button. The middle screenshot shows the "WORKSHOP PROGRAM" with a detailed agenda for the morning and afternoon sessions, listing topics like "New Developments in Breakwater Design & Construction" and "Disaster of Ports under Storm Surges and Tsunami". The rightmost screenshot shows the "PIANC-PHL" page with "KEYNOTE ADDRESS", "WELCOME REMARKS", and "UPONING ADDRESS" sections, listing speakers and their titles.

日程

- 10月14日 (火) マニラ到着
- 10月15日 (水) ワークショップ準備
PPA表敬
PIANC-Japan主催夕食会
- 10月16日 (木) 第1回PIANC-フィリピン ワークショップ
PPA主催夕食会
- 10月17日 (金) マニラ港、バタンガス港視察
- 10月18日 (土) マニラ発



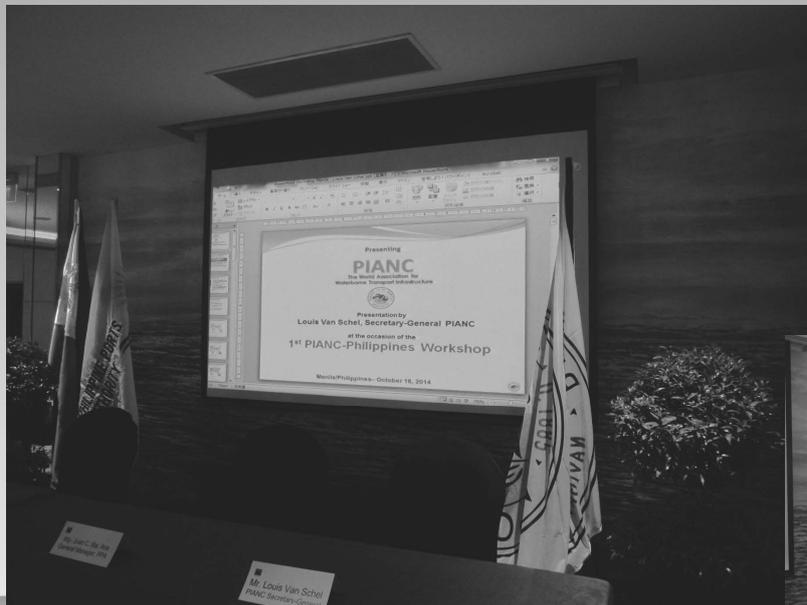
第1回 PIANC-フィリピン ワークショップ

ウォーターフロント - 港湾 - 環境

“気候変動に対応するための海上輸送インフラの改良

- ・ 開催日 2014年10月16日 (木)
 - ・ 場所 Traders Hotel Manila
 - ・ 主催 PIANCとPPAの共催
- 目的 2014年2月にPPAが正式会員としてPIANCに加盟したことを機にフィリピンの関係者にPIANCの活動を紹介する
(この時まで、団体会員、個人会員を含めて会員数はゼロ)

- ・ 参加者 フィリピン全土から200名以上
(登録参加者は184名)



プログラム (1)

08:30 参加登録

09:30 祈りと国家斉唱

09:35 歓迎の挨拶 Mr. Juan C. Sta Ana, PPA総裁

09:40 開会の挨拶 須野原豊PIANC副会長

09:50 基調講演 Hon. Undersecretary, 運輸通信省次官



プログラム (2)

10:00 PIANC概要 Mr. Louis Van Schel, PIANC事務局長

10:25 PIANC委員会活動 大内久夫 日建工学株式会社

10:45 コーヒーブレイク (プレスとの質疑応答)



プログラム (3) 技術講演

PPAとPIANC CoComメンバーの議論で5つのテーマが選定された。

11:20 港湾施設の最新の技術

Mr. Ronald Stive, Director, Royal HaskoningDHV

12:10 昼食

13:10 防波堤の設計・施工の新技术

下迫健一郎, 独法港空研領域長



プログラム (4) 技術講演

14:00 高潮、台風による港湾の被災
柴山知也 早稲田大学教授

14:50 コーヒー ブレイク

15:10 港湾及び関連インフラの定量的危険度評価

Mr. Ron Cox, Associate Professor, UNSW

16:00 台風による影響のモデル化

Dr. Mathijs van Ledden, Service Line Director, Royal HaskoningDHV



PROGRAM (5)

16:50 閉会の挨拶

Hon. Rogelio L Singson, 公共事業・高速道路省大臣



マニラ港・バタンガス港視察



来年開催予定のPIANC-COPEDEC

- PIANC-COPEDECとは
開発途上国の沿岸工学・港湾工学に関する国際会議
第1回会議が1983年スリランカのコロンボで開催
成功裡に終了し、引き続いて4年ごとに開催が決定
第6回会議でPIANCとの合併を決定 PIANC-COPEDECとなる
前回は、2012年インドのチェンナイで開催
- 目的
途上国の沿岸・港湾技術者が先進国の技術者と知識や経験の交換の場を提供すること
途上国が沿岸・港湾開発の専門家を継続的に育成できるようにすること

- ・開催場所 ブラジル、リオデジャネイロ
- ・開催期間 2016年10月16日 – 21日
- ・参加料 800ドル（2016年7月まで）
- ・論文要約提出期限 2015年9月1日
- ・論文テーマ
 - 1 港湾工学
 - 2 港湾計画及び管理
 - 3 内陸航行
 - 4 短距離海路及び沿岸航行
 - 5 沿岸工学
 - 6 沿岸域及び沿岸域リスク管理
 - 7 港湾及び沿岸環境問題と気候変動
 - 8 港湾・水路輸送と複合一貫輸送

日本の貢献

- ・奨学金（途上国参加者の支援）
200万円（17,500ドル相当）の拠出
現時点で8カ国から合計89,625ドル提供の表明
- ・論文審査委員（全体で7名）
早稲田大学柴山知也教授
一人約100編の論文の審査を行う
- ・多数の論文提出、参加をお願いいたします

ご静聴ありがとうございました

PIANC
The World Association for
Waterborne Transport Infrastructure



環境委員会Environmental Commission活動報告

中村由行（横浜国立大学大学院）

PIANC_Japan 活動報告会 2015年6月23日

“Setting the course”

PIANC – EnviCom

report 2013/2014

新しいアクションプランの策定

EnviCom Action Plan 2014-2018: New Goal

Promote the concept of
“Sustainable, Integrated and Resilient Management
(SIRM) of Navigation Assets and Natural Resources”

Lead process within PIANC of defining and promoting SRM as
along term goal by

- providing implementation guidance and recommendations
- キーワード: WwN (自然との共生)やEcosystem Goods and Services (EGS、生態系サービス), Climate Change Adaptation (気候変動に対する適用策), safety, hazard and environmental risk management(環境リスク管理),

“Setting the course”

PIANC – EnviCom

report 2013/2014

メンバー

2015年6月現在： 15カ国、9つの関連団体から参加

countries

Australia

Austria *new member!*

Belgium

France

Finland

Germany

India

Iran *new member!*

Japan

The Netherlands

Norway

Spain + YP

South-Korea

UK

USA + YP

partners

CCNR

CEDA

ESPO

EUDA

IAPH

IADC

INE

OSPAR

Ports Australia

nominated: Columbia, Philippines

wanted: Italy, China, Brazil, Argentina



"Setting the course"

PIANC – EnviCom

report 2013/2014

2013/2014 年度の会合

No. 39 Sydney, AUS, 06./07. Sept. 2013

Technical Visit:
Port Botany Expansion



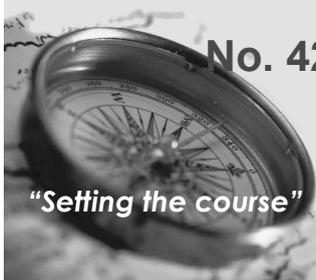
No. 40 Brussels, Belgium, 04./05. Feb. 2014

No. 41 Helsinki, Finland, 17./18. Sept. 2014

+ Workshop in St. Petersburg, Russia, 19.Sept.

No. 42 Brussels, Belgium, 04./05. Feb. 2014

次回予定Savannah, USA, 17./18. Oct. 2015



"Setting the course"

PIANC – EnviCom

report 2013/2014

Working Group と Task Group 活動状況 1

浚渫土砂関連

Ongoing enlargement of PIANC DM guidance for environmental sensitive areas:

WG 157:

“Environmental Aspects of Dredging around coastal vegetation”
New Chair: Paul Erftemeijer (NL), Publication in 2015

WG 170

on 06./07.Feb. 2014

“Good dredging practice
around sea wildlife”

Chair: Chris McDougal (UK)

PIANC Working Group 157

Singapore
21-23 August 2012

Pulau Semakau Intertidal Field Trip



“Setting the course”

PIANC – EnviCom

report 2013/2014

Working Group と Task Group 活動状況 2

港湾関連

- ✓ **WG 150: “A practical guide for a sustainable (sea-)port “ (“Green Port”)**
 - PIANC-led joint PIANC/IAPH WG
 - Chair Tiedo Vellinga (NL), co-chair Kris de Crane (IAPH)
 - レポート: Criteria what a Green Ports really is
 - published in May 2014 旧港空研白石部長(当時)

- ✓ **new WG 174 “Sustainability reporting for ports“**
 - IAPH-led joint IAPH/PIANC WG
 - Chair: Kris de Craene (IAPH)
 - Kick off in preparation,
 - 参加者募集中

“Setting the course”

PIANC – EnviCom

report 2013/2014

Working Group と Task Group 活動状況 3

航路・水路

- ✓ **WG 136 "Recommendations for Sustainable Maritime Navigation"**
 - Chair Jacques Paul (F)
 - レポート: published in July 2013
- ✓ **WG 143: "Initial Assessment of Environmental Effects of Navigation and Infrastructure Projects"**
 - chair Burton Suedel (USA)
 - レポート: published in April 2014 国総研岡田室長参加
- ✓ New ways involving external experts for special issues:
 - **PIANC Workshop** on 20th November 2013 at HQ
 - **"Dredging and port construction and their interaction with features of archaeological or heritage interest"**
 - Chaired by new PIANC member Euan McNeill (UK)
 - Results from participating experts will be put in a report published by PIANC



"Setting the course"

PIANC – EnviCom

report 2013/2014

Working Group と Task Group 活動状況 4

航路・水路 + 港湾

新規WGの立ち上げ:

–kick off new **WG 175 "A Practical Guide to Environmental Risk Management (ERM) for Navigation Infrastructure Projects"**

–kick off new **WG 176 "A Guide for applying Working with Nature (WwN) to Navigation Infrastructure Projects"**.

–expert seminar on **Ecosystems Goods and Services (EGS)** to produce a guiding document

- new WG **"A guidance on climate change adaptation for navigation infrastructure projects"** – elaborated by PTGCC



"Setting the course"

PIANC – EnviCom

report 2013/2014

重点活動項目 (1)



Working with Nature – WwN

- ✓ WwN に関し、世界各国で講演 (EnviCom メンバー)
YPCOM seminar in Japan, 9th Dec. 2014では中村が報告
- ✓ WwN Position Paper が各国語に翻訳 (日本語含む)
- ✓ WwN online database にプロジェクトが紹介され、プロジェクトの認定方法が2013年2月に確定
- ✓ 18 のプロジェクトが申請され、以下の3つのカテゴリーにおいて9プロジェクトが認定
 1. Certificate of recognition (7),
 2. Candidate for certificate of recognition (1),
 3. Supporter of WwN (1)

WwN 審査チームメンバー

Elmar Fuchs/EnviCom (chair), Luc van Damme/MarCom,
Yves Morin/InCom, Màrius Tomé I Covelo/RecCom,
Hartmut Brühl/CoCom, Pablo Arreco/YPCOM



"Setting the course"

PIANC – EnviCom

report 2013/2014

Working with Nature



第1回 WwN Award が PIANC Congress 2014にて表彰

3つのプロジェクトが受賞:

–Flood Spillway Rees/River Rhine 

–3 Meter Navigation Channel Middle Mississippi 

–New tidal Area Kreetsand/River Elbe 

New submitted and acknowledged projects can qualify for WwN Award 2018

New WG 176 on WwN: further PIANC guidance

Platforms for Exchange: WwN database and LinkedIn-Group



"Setting the course"

PIANC – EnviCom

report 2013/2014

重点活動項目 (2)

Permanent Task Group on Climate Change (PTGCC)

since 2009

- Filters and packages current CC knowledge for navigation community (e.g. new IPCC report - AR5)
- produces guidance and write-ups (make use! see thematic PIANC website)
- **Chair Todd Bridges & Secretary Sandra Brasfield since January 2013**

✓ Meetings in conjunction with EnviCom meetings:

No. 9 in Brussels, Belgium, 28. Jan. 2013

No.10 in Brussels, Belgium, 03./04.Feb 2014

No.11 in Helsinki, Finland, 16.Sept. 2014

No.12 in Brussels, Belgium, Feb. 2015

+ Telecons

鈴木部長(国総研)→栗山研究主監(港空研)参加

"Setting the course"

PIANC – EnviCom

report 2013/2014

重点活動項目 (2) (つづき)

Permanent Task Group on Climate Change (PTGCC)

✓ International development to increase the resilience of transport infrastructure is progressing

(e.g. OECD/ITF, UNECE, EU, regional, national)

✓ common ground needed to integrate suitable climate adaptation methods and data in the waterborne infrastructure planning and decision-making

✓ Two new TORs from PTGCC for approval:

- Guidance on climate change adaptation

- Guidance on carbon balancing (in prep.)

"Setting the course"

PIANC – EnviCom

report 2013/2014

その他の団体との協力

IMO, Scientific Group of the London Convention

- ✓ Joint PIANC/CEDA participation in review of Specific Guidelines for Assessment of Dredged Material; new guidelines approved in Oct.13 (see article in PIANC newsletter Oct.13). Important message: “dredged sediments are a natural resource and not waste per se”
- ✓ Ongoing participation in SG meetings (May 2013, May 2014), submission of new EnviCom reports to the SG of LC

OSPAR, Environmental Impact of Human Activities (EIHA)

- ✓ review of Specific Guidelines for Assessment of Dredged Material,
- ✓ joint effort with CEDA , participation in EIHA meetings

EU guidelines: navigation + nature protection

- ✓ Ongoing observation and case by case involvement by EnviCom members



“Setting the course”

PIANC – EnviCom

report 2013/2014

7) レクリエーション水路委員会(RecCom, Recreational Navigation Commission)活動報告

RecCom 委員

山下 雅人

(一社) 日本マリーナ・ビーチ協会理事

I. 第 64 回 RecCom 会議の概要

日時 2014 年 10 月 8 日 9:00~16:30

場所 PIANC 本部事務局

参加者: 委員長 Mr. Elio Ciralli(イタリア)

委員 Mr. Harald Andreassen(ノルウェー)、Mr. Tim Beckett(英国)、Ms. Kathleen Bernaert(ベルギー)、Mr. Michael de Jong(オランダ)

Mr. John Kwong(香港) (スカイプで会議参加)

参加者 5 名+1 名 (スカイプの参加)、計 6 名

議事

1. 委員長挨拶

委員長挨拶後、各委員の自己紹介及びスカイプで会議参加の Mr. John Kwong(香港)が自己紹介を行った。

2. 委員からの発表

Ms. Kathleen Bernaert(ベルギー)から “Searching for the Best Protection Against Low Water Corrosion in Marina” 「マリーナにおける干潮面腐食の防護調査」についてベルギー海岸部局の業務説明があった。新たな WG のテーマに適しているのではないかとの話になった。

3. 第 63 回議事録

前回の第 63 回議事録は、修正なく承認された。

4. 委員長からの報告

Ms Mariana Fernandez(イタリア)が RecCom セクレタリーの継続が難しくなったため、新たな人選に入っている。

5. 行動予定表

最新の行動予定表についての紹介があった。

6. 年次報告

来春の会議で承認する年次報告について協議を行った。

7. ワーキンググループの進捗状況

WG130 “Reducing Sedimentation Problems in Marinas (joint PIANC-ICOMIA WG)” 「マリーナの埋設問題」

2014年9月委員会で予備的な報告書草案について協議を行った。一般的な内容が多いため、マリーナの現況を踏まえ、より詳細に記載することについて協議された。

WG147 “Guidelines for Management of Recreational Navigation Activities within Fishing and Commercial Ports (RecCom members WG and other experts – in cooperation with MarCom)” 「漁業、商業港内でのレクリエーション航海活動のガイドライン」

更新されたTORがHQに送られた。ケーススタディーの事例は、RecComのメンバーで用意する。特別委員会が近いうちに準備される予定である。

WG148 “Recommendations for Environmentally Sustainable Recreational Navigation Infrastructure (in cooperation with EnviCom)” 「環境上持続性のあるレジャー用航路施設」

最終版のドラフトは2014年5月に委員会に提示されている。最終確認を行った後、出版予定である。

WG149 “PIANC Guidelines for Marina Design” 「マリーナの設計 PIANC ガイドライン」

いくつかの章は執筆済みである。すべての章がそろった段階で出版するのではなく、ある程度まとまった章毎に公表することを協議している。

WG168 “Single Point Yacht Mooring Design” 「ヨット用の一点係留施設の設計」

メンバーの協力不足のため業務が遅れている。グループに新たな熱意を持たせ、WGの議長の立場を強化することが協議された。

WG169 “Fire system detection and controls in marinas” 「マリーナにおける火災検知と管理」

WG の一部のメンバーは活動的でないため交代を考えている。業務を適切に終わらせるため、座長の意図を確認する。

WG177 “Marina Excellence Design: 10 years of the “Jack Nichol” Award MEDA (RecCom internal WG)” 「マリーナの優れた計画：“Jack Nichol” Award MEDA” の10年」

WG からは新たな資料はでていない。年末までにはドラフトを出したい意向はある。

8. 新たな TOR

Ms Bernaert と Mr Siches によって “Innovative products and technologies in marina” 「マリーナの革新的な製品と技術」の TOR が用意された。

Mr T. Browne から “Underwater Acoustic Imaging of Waterborne Transport Infrastructure” 「海上輸送施設の水音響画像」の TOR が出された。RecCom 委員長は、MarCom、InCom との共同作業について考えている。

9. 小委員会の活動

Communication & Editing (C&E) Sub-Committee

小委員会の活動の①小委員会活動の情報更新、②PIANC ニュースレター、雑誌、ウェブサイトなど、③RecCom のウェブサイトの見直し、について再確認をおこなう。一部の分野での遅れが指摘された。新たな人材登用について協議された。次回の会議で方向性を出す。

PIANC Marina Designer Training Program (MDTP) Sub-Committee

2015年9月アルゼンチンのブエノスアイレスで開催される会議に MDTP のコースを開催し、同時に RecCom の会議を開くことが提案され、了承された。また、MDTP コースをアジアや中東での開催の可能性について、今後確認することになった。

PIANC Marina Excellence Design Award “Jack Nichol” Sub-Committee (MEDA)

賞の規定と要求条件などの見直しについて次回の会議で検討を行う。

10. 今後の会議予定

2015年2月4日 フランダース、ベルギー

2015 年秋、アルゼンチン

2016 年 春、ブリュッセル

2016 年秋、アジア (インド・中国・韓国) J.Kwong によって確認

II. 第 65 回 RecCom 会議の概要

2015 年 2 月 3 日(火)から 2 月 4 日(水)の 2 日にわたって、ベルギー西部のフランダース海岸近郊で、第 65 回レクリエーション水路委員会(RecCom)会議とマリーナ現地視察等が実施された。以下にその概要を示す。

II-1 第 65 回 RecCom 会議

日時 2015 年 2 月 4 日 15:40~18:40(3 時間)

場所 : Clubhouse WSKLum、ベルギー

参加者 : 委員長 Mr. Elio Ciralli(イタリア)

委員 Ms. Katleen Bernaert(ベルギー)、Mr. Francisco Sarrias、Mr. Oscar Siches(スペイン)、Mr. Màrius Tomé i Covelo (スペイン)、Mr. John Kwong(香港)、Mr. Stig Jansson(スウェーデン)、Mr. Gian Battista Borea d'Olmo (モナコ)、Mr. Peter Jansen(ドイツ)、Mr. Lars Odhe(スウェーデン)、Mr. Arnaud Guillard(フランス)、Mr. Michiel de Jong (オランダ)、Mr. Masato YAMASHITA(日本) 計 13 名

スカイプで会議参加 2 名 Mr. Esteban L. Biondi(アルゼンチン)、Mr. Jack Cox(アメリカ)

参加者 13 名+2 名 (スカイプの参加)、計 15 名

議事

1. 委員長挨拶

Elio Ciralli 委員長の挨拶の後、新たなセクレタリーMr. Francisco Sarrias の紹介があった。引き続き、会議出席者が自己紹介を行う。

2. 前回 64 回 RecCom 会議議事録

議事録の説明が行われ、承認された。

3. 委員長からの報告

前回の ExCom 会議と PIANC 本部から RecCom 関連の報告があった。ワーキンググループのリスト、2014 年出版の国際航路協会 WG レポートと収入、PIANC 資金調達の FinCom からの提案、について説明があった。

4. RecCom 行動予定表

RecCom の行動すべき内容について協議と更新が行われた。

5. 年次報告

年次報告書の最終案について協議した。

6. ワーキンググループの進捗状況

WG 130 : “Reducing Sedimentation Problems in Marinas” 「マリーナの埋設問題」

TOR 承認 : 2007/11 業務開始 : 2008/8 素案 : 2014/9 出版予定 : 2014/2

業務は当初計画に比べ遅れている。

(2015 年 5 月 30 日に RecCom メンバーへ最終原稿の確認依頼が行われている。)

WG 147 : “Guidelines for Management of Recreational Navigation Activities within Fishing and Commercial Ports” 「漁業、商業港内でのレクリエーション航海活動のガイドライン」

TOR 再承認 : 2014/2 業務再開 : 2014 出版予定 : 2016/2

本日がキックオフのようなものである。早くドラフトを出す。ケーススタディーをやりガイドラインを作る。ケーススタディー数は、15、20 事例程度欲しい。

WG 149 : “PIANC Guidelines for Marina Design” 「マリーナの設計 PIANC ガイドライン」

TOR 承認 : 2009/11 業務開始 : 2010 出版予定 : 2015

作業は遅れている。第 1 章は 2014/12 にできている。6 章と 7 章ができれば出版したい。一部の担当者が執筆の交代を希望している。その代行者には了解を得ている。

WG 168 : “Single Point Yacht Mooring Design” 「ヨット用の一点係留施設の設計」

TOR 承認 : 2013/2 業務開始 : 2014/2 出版予定 : 2015

現在進行中である。

WG 169 : “Fire system detection and controls in marinas” 「マリーナにおける火災検

知と管理」

TOR 承認：2013/2 業務開始：2014/2 出版予定：2016

ファイナルドラフトは、今年末には受け取る予定である。

WG 177 : “Marina Excellence Design: 10 years of the “Jack Nichol” Award MEDA” 「マリーナの優れた計画：“Jack Nichol” Award MEDA” の 10 年」

TOR 承認：2014/2 業務開始：2014/2 ドラフト承認：2015 出版予定：2015

通常業務が忙しく報告書の対応ができていない。電話でスピードアップを依頼しているが、対応できないのであれば他の委員に業務を渡した方がよい。新たな TOR は明日の会議で協議する。

7. 新たな TOR

ワーキングの新たな話題についての優先度リストについて説明がある。我々の市場にとって興味深いものとなる。新たな作業を行うことにつながる。ウオータフロントや船舶関係者とも協力関係を強めていきたい。作業を行う場合、少人数で分担して進めていくことになる。

8. RecCom 小委員会

RecCom の新しいパンフレットを示し、RecCom 小委員会へのメンバー参加希望の確認を行う。Mr. John Kwong(香港)が教育関係の小委員会に参加の意思表示を行う。2015 年 9 月のアルゼンチンでマリーナデザイナー教育プログラムを実施する。手伝ってくれるメンバーを募集している。

9. RecCom 会議の開催予定

- Autumn 2015, Argentina
- Spring 2016, Bruxelles
- Autumn 2016, Asia (India, China or Korea)

II-2 マリーナ視察とガイダンス

RecCom の会議に先立ち、ベルギーフランダース沿岸部局主催によるマリーナ視察とその関連のガイダンスが行われた。

参加者 14 名

1. 2月3日(火) 9:00~17:30 (6時間)

ヨットクラブ VVW ブランケンベルグ (Blankenberge) の視察

ガイダンス 6分野

発表①「フランダース海岸と沿岸局 (部)」 フランダースの海岸とマリーナの位置

発表②「ブランケンベルグのマリーナの歴史」 ブランケンベルグの位置と歴史

発表③「改良区域と旧施設」 マスターの説明は沿岸防護 (気候変動適応の調整と海面上昇の結果としてマリーナ周辺対策) - ブランケンベルグへのマリーナの適用

発表④「フランドルの沿岸の港での暴風大波の観測」 マリーナ拡張のマリーナ/未来シナリオの航路のシルテーション問題

発表⑤「ブランケンベルグマリーナでの暴風防護の建築設計」

発表⑥「ブランケンベルグの港の水路の砂の堆積」 浚渫港のチャンネル/マリーナ ガイダンスと説明

現地事務所でプロジェクト概要の説明、その後現場視察、改良事業が行われている海岸保全施設の視察

オステンドマリーナの視察

2. 2月4日(水) 10:00~15:30 (3時間 10分)

ガイダンス 5分野

発表①「今日のニューポートとマリーナの拡張 (RON 事業)」 土手右側の RON マリーナ拡張事業ニューポート

発表②「ニューポート暴風波浪壁」 暴風波浪バリア事業、嵐の大波の防護事業

発表③「ニューポートフェリー」

発表④「ニューポート ガンゼポート」

発表⑤「バースの配置のためのソフトウェア」

ニューポートマリーナ (WSKLum Nieuwpoort) 視察、海浜遊歩道の見学

PIANC YP-Com 活動報告

平成27年度



国立研究開発法人 港湾空港技術研究所
地盤研究領域 主任研究官
高橋英紀

平成26年度の活動概要

1. 国内グループの講演会と会議

- ・開催日：平成26年6月4日(水)
- ・開催場所：東京・OCDI会議室
- ・内容：講演会, グループ会議, 意見交換会

2. 国内グループの現場見学会

- ・開催日：平成26年10月27日(月)
- ・開催場所：大阪・阪神国際港湾(株)
- ・内容：大阪港見学, グループ会議, 意見交換会

3. 第1回アジア地域セミナー(1st Asian Seminar in Yokohama)

- ・開催日：平成26年12月8日(月)～11日(木)
- ・開催場所：横浜・ワールドポーターズ他
- ・内容：講演会, YPCom会議, 現場見学, 意見交換会など

4. その他

※YPCom国内グループとは、団体会員各者の若手技術者から構成した情報交換ネットワークである。

国内グループの講演会と会議

1. 開催日：平成26年6月4日(水)
2. 開催場所：東京・OCDI会議室
3. 内容：
 - ・日建工学(株)松下紘資氏が、防波堤補強方法について講演した。
 - ・グループ会議において、自己紹介や今後の活動方針、アジア地域セミナーの中身について議論を行った。
 - ・意見交換会を行い、親睦を深めた。



講演の様子



集合写真

国内グループの現場見学会

1. 開催日：平成26年10月27日(月)
2. 開催場所：大阪・阪神国際港湾(株)
3. 内容：
 - ・大阪港C-3バースを見学させていただいた。
 - ・グループ会議において、今後の活動方針とアジア地域セミナーの中身について議論を行った。
 - ・意見交換会を行い、親睦を深めた。



大阪南港



議論の様子



集合写真

第1回アジア地域セミナー(横浜)

1st Asian Seminar in Yokohama

1. 開催日: 平成26年12月8日(月)~11日(水)
2. 開催場所: 横浜・ワールドポーターズ他
3. 参加者: 日本20名+アジア地域9名+アジア地域以外8名



参加者の出身国

スポンサー



会議事務局

Hidenori Takahashi
Hiroshi Matsushita
Pablo Arecco



PIANC本部 ... 参加者3名の航空券とホテル代
PIANC Japan ... 会議開催費用
港湾空港技術研究所 ... 会議開催費用
国土交通省関東地方整備局 ... 船上見学会, 東京港案内



ご協力, ありがとうございます。

講演・会議内容

- 各国YPCoMメンバーからの講演
- 日本から講師3名の講演
- PIANC USからHelen A. Brohl氏の講演
- 横国大から中村教授からEnviComの紹介講演

- YPCoMメンバーでグループディスカッション
- インターネットを利用したオンライン会議と会議室での会議の複合会議



YPCoM講演者



Helen A. Brohl

Yoshiyuki Nakamura

PIANCからの講演者



日本からの講演者

現場見学会(その1)



Yokohama Port
横浜港



Tokyo Port
東京港



現場見学会(その2)

Kamakura
鎌倉



Tokyo 東京



その他

1. YPCom日本代表 (Delegate)として、港湾空港技術研究所の高橋に加えて、日建工学株式会社の松下紘資氏を選出した。代表者の枠がもう1名分あり、今後選出する予定である。
2. 国内グループの情報交換のツールとしては、主としてe-mailを利用していたが、**LinkedIn**による情報交換も開始した。現在、各国のYPComにおいてグループが形成されており、日本においてもグループを形成した。また、日本のグループに所属する各人は自動的にYPCom本部のグループにも登録されるため、本部の情報も随時入手できるようになった。
3. 平成27年度の活動としては、以下のことを予定している。
 - フィリピンYPComの訪問(4月24日)
 - YPCom 5BTVとYPCom会議への参加(5月4~12日)
 - 国内グループ現場見学会(6月10日、仙台湾南部海岸堤防)

